

A decorative graphic on the right side of the page features three circles of varying sizes and colors (green, yellow-green, and yellow) connected by thin lines. The largest circle is yellow and positioned at the bottom right, while two smaller circles are green and yellow-green, positioned higher up and to the left. Lines extend from the top left towards the circles.

横浜市福祉サービス第三者評価
評価結果報告書
矢向あけぼの保育園

平成 28 年 2 月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域 サービスの実施内容.....	6
評価領域 地域支援機能.....	8
評価領域 開かれた運営.....	9
評価領域 人材育成・援助技術の向上.....	10
評価領域 経営管理.....	11
利用者家族アンケート分析.....	12
利用者本人調査.....	16
事業者コメント.....	19



実施概要

事業所名	矢向あけぼの保育園
報告書作成日	平成 28 年 1 月 28 日 (評価に要した期間 5 か月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

*評価方法

1. 自己評価	<p>【実施期間：平成 27 年 8 月 28 日～12 月 14 日】</p> <ul style="list-style-type: none">・常勤職員には職員会議で趣旨説明、勤務時間内に評価票を各自記入した後、会議の中で一つ一つ話し合った。まとめについては、クラス・調理室・フリーの職員各 1 名参加で、1 項目ずつ確認を行い、その後常勤職員で時間をつくりながら、全員で話し合い、まとめた。・非常勤職員は書面での趣旨説明の後、各自記入した自己評価票をもとに各クラス代表が出て、グループに分かれ、領域ごとに意見を出し合った。
2. 利用者家族アンケート調査	<p>【実施期間：平成 27 年 10 月 1 日～10 月 15 日】</p> <p>配付：全園児の保護者（46 世帯）に対して、園から手渡しした。 回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。</p>
3. 訪問実地調査	<p>【実施日：平成 27 年 12 月 8 日、12 月 14 日】</p> <p>■第 1 日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：書類調査～事業者面接調査（園長）</p> <p>■第 2 日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：職員ヒアリング（乳児リーダー、幼児リーダー、新人保育士、看護師、栄養士、非常勤職員 計 6 名） ～事業者面接調査（園長）</p>
4. 利用者本人調査	<p>【実施日：平成 27 年 12 月 8 日、12 月 14 日】</p> <p>①訪問日両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。 ②乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。</p>



評価結果についての講評

【施設の概要】

矢向あけぼの保育園は、JR 南武線尻手駅から徒歩で 10 分、汐田総合病院の並びにあるビルの 2 階 3 階にあります。平成 26 年（2014 年）4 月、社会福祉法人鶴見あけぼの会により開設されました。

園の施設は 2 階に 0・1・2 歳児の保育室と乳児トイレ、医務室、事務室と多機能トイレがあり、3 階には 3・4・5 歳児の幼児保育室、幼児トイレ、調理室とホールがあります。外階段を使って保育室から直接行くことができる園庭があり、鉄棒や砂場などがあって子どもたちの遊び場になっています。

定員は 60 名です。延長保育、一時保育を実施しており、開園時間は 7 時 00 分から 20 時 00 分、土曜日は 7 時 30 分から 15 時 30 分となっています。

保育理念は「私たちは、子どもの権利条約・児童憲章・児童福祉法の精神に基づき、未来を担う子どもたちが、心身ともに健康に育つことを目指し努力します。その為には、子どもとかかわるすべての人々が安心して生きていける社会の実現を目指します。」と定め、理念を基に、保育方針を「私たちは、長年認可外の共同保育所で培ってきた子育ての理念に基づき、子どもたちが心身共に健康に育ち、一人ひとりが尊重され、生きる力や思いやりがそだつことを目指し保育を行ないます。また、保護者が安心して働き子育てが出来るように、職員が心を合わせともに考え、ともに喜び合える保育園を目指します。」としています。また、保育目標を「・ぼくもわたしも一人ひとりが主人公 意欲をもって何事にも挑戦しよう。・思いっきり体を使って遊ぶことが大好き！ 自然に触れながら五感をたっぷり育てよう。・お友だちがいっぱい、仲間といることが大好き 思いやりの心を育て、失敗も成功もみんなの力にしよう。」としています。

1. 高く評価できる点

遊びが豊かになる工夫のもと、一人一人が大事にされ、子どもたちは元気に遊んでいます

子どもたちは登園すると好きな遊びをしています。テーブルでは折り紙やお絵描きをしたり、コーナーではおままごとや積木遊びをしたり、保育士の膝の上で本を読んでもらう子どももいます。電車を作りたいと言う子どもの声に保育士は椅子を子どもと一緒に運び、2 列に並べて電車に見立てました。おままごととしていた子どもが気付く、「乗せてください」とやってきます。そばにいた子どもが「切符がいるんじゃない？」と言い、色画用紙の小さな切れ端を保育士が渡し、次々に遊びが発展し、乗り降りする子どもが続きます。

保育士は子どもが次に何をするか、先を読んで対応する事のないよう気をつけ、待つ姿勢を大切にしています。「一人ひとりが主人公」を掲げ、子ども自身が自分でやりたいことを見つけるよう配慮しています。乳児は一斉活動を極力少なくし、幼児の「やりたくない」気持ちも認め、活動は自由参加を基本としています。お片付けもさり気なく行われて、遊びを続けている子どももいたり、作品を片付けたくない子どもには「ここに飾っておきましょう」と棚に飾ったりしています。

子どもたちが自由に遊べるよう、遊びが豊かになる工夫も随所にみられます。バックやスカート、スナックボタンホールを利用した手作りおもちゃや絵本など、子どもの想像力を育む素材が豊富です。訪問日は、赤ちゃん人形が欲しいと言う要望に応じて、赤ちゃんの人形を製作していました。このような工夫のもとクラスでも異年齢でもたっぷり遊ぶ時間が確保されています。また、園では子どもの自己主張を大切にし、もめることも必要と考えています。子ども同士の小さないさかいは起こりますが、保育士はまず見守り、子どもが自分の気持ちを伝えるのを待ちます。職員は子どもの発達段階に応じて、子どもの訴えを聞いたり、相

手の気持ちを代弁したりしています。

このように一人一人が大切にされ、子どもたちは園生活を楽しんでいます。利用者家族アンケートで、保育の内容への保護者の支持が多いことから、子どもたちの楽しんでいる様子がうかがわれます。

職員は、自己研鑽に努めています

職員はそれぞれモチベーションが高く、内部研修やキャリアアップの為の外部研修のほかに、職員会議などで常に子どもたちにとって良い保育とは何かを話し合っています。園での音の配慮に関しても、家庭的で落ち着いた園を目指したいとして保育士の声をあげない、やさしく話す決めて実行しています。実際にすべての職員の話し方は穏やかでした。職員は、子どもの気持ちを汲み取ることが出来るよう、毎年外部カウンセラーに来園してもらい丁寧に時間をかけてケースカンファレンスを実施しています。また、週1回子どもの体幹を鍛える「体育課業」を計画し、毎回自己評価を実施して次回につなげています。栄養士は給食の献立を工夫し、保育士と協力してクッキングを実施するなど「食育」をすすめています。看護師は子どもたちの健康状態をチェックし、幼児向けに健康教室を定期的実施しています。職員は自己研鑽に励みながらよりよい保育を目指しています。

2. 独自の取り組み

幼児は縦割り保育を実施しています

年下の子どもは年上の子どもの活動を見て学び、憧れを抱き、年上の子どもは年下の子どもの世話をし、教える事で自信をもち思いやりを育みます。子どもが相互に教え合い、学び合い、共に育ち合う事を大切に、意欲や好奇心を高め、人と関わりコミュニケーションを取ることで、自分の思いを伝え、友だちの言葉に耳を傾けることができることを目指しています。月齢や発達の違いを意識することなく、「一人ひとりの主体性」が大事にされるとして縦割り保育を実施しています。

3. 工夫・改善が望まれる点

地域の子育て支援と地域交流に期待します

園は、地域の人々に“乳幼児のおやつ”や“絵本の選び方”の講習会を開催したり、園の行事“納涼会”に誘ったり、また一時保育を実施していますが、保育の専門性を活かした情報提供や育児相談は実施していません。開園2年目ということで、内部の体制作りが課題であったと思われませんが、これまで培った知識や職員の豊富な経験や技能を活かして、定期的に相談日を設けて子育て相談に応じたり、引き続き地域住民に子育て支援の講習会や研修会の講師をしたり、さらに地域との交流が深まる取り組みを積極的に展開することを期待します。

マニュアル作りの充実が望まれます

感染症対応・事故防止・事故対応・安全管理等の個々のマニュアルは作成されていますが、業務マニュアルなど作成されていない分野もあります。職員一人一人が意見を出して、職員会議で話し合い、園として、どの職員が携わっても常に同一水準の内容の保育サービスが提供できるマニュアルを作成し、非常勤職員を含めて全職員間に周知し、実践されることが期待されます。



分類別評価結果



3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある

評価領域 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類 - 1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は「私たちは、子どもの権利条約・児童憲章の精神に基づき、未来を担う子どもたちが、心身ともに健康に育つことを目指し努力します。その為には、子どもとかわるすべての人々が安心して生きていける社会の実現を目指します。」としています。保育方針を「私たちは、長年認可外の共同保育所で培ってきた子育ての理念に基づき、子どもたちが心身共に健康に育ち、一人ひとりが尊重され、生きる力や思いやりがそだつことを目指し保育を行います。また、保護者が安心して働き子育てが出来るように、職員が心を合わせともに考え、ともに喜び合える保育園をめざします。」とし、保育目標を「・ぼくもわたしも一人ひとりが主人公 意欲をもって何事にも挑戦しよう。・思いきり体を使って遊ぶことが大好き！ 自然に触れながら五感をたっぷり育てよう。・お友だちがいっぱい、仲間といることが大好き 思いやりの心を育て、失敗も成功もみんなの力にしよう。」としていて、利用者本人を尊重したものとなっています。 ・理念や保育方針、保育目標は「保育課程」に記載され、職員会議でも職員に説明しています。これを基に指導計画が作成されるので職員は理解しています。 ・保育課程は、保育理念・保育目標に基づき、一人一人の子どもの発達過程や家庭状況を踏まえるなど、子どもの最善の利益を第一義にしています。 ・日常の保育において、子どもの発達段階に応じて職員は必要なことをきちんと話し、子どもが納得することを大切にしています。乳児等言葉で伝えられない子どもは表情や態度から意思を汲み取るようにしています。幼児には保育士が先取りしたり、押し付けたりしないで、子どもから意見や要望を言いやすいよう待つことを大事に取り組んでいます。子どもの意見や要望を聞いて指導計画の見直しに活かしています。指導計画には柔軟性を持たせ、子どもの意見を計画に反映させています。 		
評価分類 - 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会を実施して、保護者と面接しています。十分な時間が取れない保護者には担任と日時を決めて後日、改めて面接しています。面接時に子どもと一緒に来園してもらい、子どもの様子を観察して記録しています。 ・入園後の短縮保育（ならし保育）は子どもの様子や状況に応じて保育時間を徐々に延ばしていくようにしています。保護者には事前に「保育園のしおり」の慣らし保育の項で乳児・幼児それぞれ例をあげて説明しています。 ・0,1歳児はしっかりした担当制をとって保育をし、個別に主担当者が決まっています。 ・0,1,2歳児は、毎日連絡ノートを記入し、子どもの様子について保護者への丁寧な連絡を心掛けています。保護者も家庭での様子を記入して相互に理解を深めています。幼児は保護者の希望によって連絡ノートを使用しています。 ・月間指導計画や個別指導計画は、子どもの発達や状況に応じて作成し、評価や見直しをして、次の計画を作成しています。指導計画の評価・改訂に当たっては、クラスの担当者が話し合い作成し、園長も目を通して助言をしています。 		
評価分類 - 3 快適な施設環境の確保	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・園内外の清掃は良く行われて清潔に保たれています。通風、換気は常に留意していて、気になる臭いはありませんでした。保育室は南向きで、陽光が十分取り入れられる構造となっています。音や保育者の声については勉強会を実施し、家庭的で落ち着いた雰囲気を目指すよう音に配慮しています。 ・0歳児保育室内に沐浴設備があり、乳児用・幼児用の子ども用トイレに温水シャワーがあります。 ・低年齢児が安心して過ごせるよう、マットや衝立、机等でコーナーを作り、小集団保育が行われるよう保育室の使い方を工夫しています。0,1,2歳児の保育室は食べる・寝るなど同じ部屋ですが機能別に場所を確保しています。3,4,5歳児は食事は各保育室で行い、午睡はホールにコットを敷いて寝る場所を確保しています。 		

評価分類 - 4 一人一人の子どもに個別に対応する努力	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児については、子どもの成育歴や心身の発達を考慮して、個別指導計画を作成しています。幼児についても、特別な課題がある場合には、個別指導計画を作成しています。個別の目標・計画は定期的に見直すだけでなく、離乳食の進め方やいやいや時期(いやいや期)の対応など子どもの発達状況に合わせ保護者と連携を図り、柔軟に変更・見直しを行なっています。 ・子どもや家庭の個別の状況・要望は、児童票(経過記録) 児童健康台帳、個別指導計画等定められた書式に記録しています。子どもの記録内容は事務室のロッカーに保管して、職員は共有しています。 ・重要な申し送り事項は児童票に記録し、進級時には次の担任はあらかじめ児童票を読み、前担任と時間をかけて打ち合わせを行なっています。 ・個別指導計画の作成・見直しにおいて、保護者の意向を確認していますが、園としては全ての保護者に同意を得るまでには至っていないと考えています。 		
評価分類 - 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に障害児保育事業をあげ、保育課程にも障害のある子どもの理解、配慮、適切な支援をすると表明して特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。特に配慮を要する子どもの個別のケースについては、クラスや職員会議で話し合い、個別の記録に反映させています。職員は積極的に最新の情報を研修し、研修記録と資料をもとに職員に報告して、得た知識を保育に活かしています。 ・園の床は段差がなく、バリアフリーの構造となっています。車椅子対応の広いトイレを設置し、2階へはエレベーターを使用して移動できます。横浜市東部地域療育センター、鶴見区の保健師、専門家などから助言や情報を得て保護者と話し合っています。 ・障害の特性に考慮した個別指導計画が立てられ、職員は共有しています。外部カウンセラーに来園してもらい、対応の難しい子どものケースカンファレンスを昨年度は3回、引き続き今年度も3回実施しました。また、発達障害の園内研修を2回実施し、全職員で対応を共有するように努めています。 ・虐待に関しては、昨年度は園長、今年度は看護師が虐待に関する外部研修に参加し、虐待の定義や対応を職員に報告しています。虐待に至らないように、保護者と連絡を取り合い、家庭支援が必要と思われる保護者には、話しを聞く機会を設けて、話し合いを行なっています。また、虐待防止連絡会に参加して防止に努めています。 ・アレルギー疾患のある子どもについては、かかりつけ医の指示を受け、適切に対応しています。食物アレルギーについては、入園時に医師の診断書と「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」を提出してもらい、相互にチェックし、翌月の献立表を毎月末に保護者に配布して連絡を密にしています。除去食を提供する場合は、専用の皿を使用し、禁止食品をラベルで記載した専用トレーを使用して、栄養士とクラス担任が確認して提供しています。 ・文化や生活習慣、考え方の違いを認め尊重するよう配慮しています。現在は日本語が堪能な保護者のみですが、意思の疎通が困難な場合は区役所の通訳ボランティアを依頼するなどの対応策を考えています。 		
評価分類 - 6 苦情解決体制	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・「保育園のしおり」の“苦情処理委員会の設置について”の項に要望・苦情を受け付ける担当者が決まっており、保護者に説明しています。元保育士と心理カウンセラーの2名が第三者委員として決まっていて、直接苦情を申し立てることができるよう「保育園のしおり」や園内に掲示して周知しています。三者委員を交えて対応する仕組みは、文書に明記されています。苦情解決責任者は園長が任にあたり、要望や苦情の解決策は職員会議等で職員に周知しています。 ・懇談会や保護者会から進んで要望や苦情を聞いていますが、自分で意見を表明するのが困難な園児や保護者から意見を聞く手立てが不十分だと園では考えています。また、苦情はまだなく、過去の苦情・トラブルや要望のデータを蓄積・整理するまでには至っていません。 		

評価分類 - 1 保育内容 [遊び]	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> 職員手作りのバッグや人形、おびい紐、スカートやエプロン、スナップはめ、等が取り出しやすいように、整理されています。幼児クラスには本物の鍋やしゃもじ、お椀や皿、洗面器や洗濯ピンチハンガー、病院や美容院のセット、また、紙やサインペン、粘土等があり、写真を棚に貼って片づけやすいようにしてあります。蛇口のついた流しや手作りのレンジ台があります。絵本は表紙が見えるような絵本棚に並んでいます。それぞれ、自分で選んで取り出して自由に遊べるようになっています。 子どもたちは好きなことをして遊び始める時間が十分確保されています。乳児の朝の受け入れは各クラス単位でされているので、遊びが中断されることはありません。 保育士は子どもたちが一人一人じっくり遊べるように見守り、声をかけたり、一緒に遊んだり、援助しています。 夏にはオクラ・きゅうり・トマト・枝豆を栽培し、スタンプにしたり、枯らして種を取ったり、給食に出してもらっています。保育室ではカブトムシの幼虫やカタツムリ、メダカを飼育したり、散歩先の公園で虫などに触れ、興味関心を広げています。 天気の良い日には公園等に散歩に出かけ、季節を肌で感じられるようにしています。落ち葉や枝を拾ったり、虫を触ったり、芋掘りの後のつるでリースを作ったり、自然に触れられる体験を大事にし、園庭の雑草も抜いたりせず、自然のままにしています。 幼児のクラスは3,4,5歳児と3,4歳児の2クラス、乳児は0歳児と1,2歳児合同クラス、2歳児クラスで構成されており、普段から異年齢のかかわりの中で生活しています。誕生会や夕方の園庭あそびは園全体の交流になっています。5歳児は1,2歳児クラスの午睡明けの手伝いに行く機会を作っています。 職員は常に公平で温かい態度、言葉遣い、穏やかな話し声等で子どもたちに接し、信頼関係を築いています。 体育課業を週に一度行っています。これは発達段階に応じて、背筋・腹筋・身体の軸を強くするもので、子どもたちもとても楽しみにしています。園庭には鉄棒があり、ロープでブランコが作ってあったり、足蹴り乗用玩具や1本げた・ぼっくりなどがあります。 		
評価分類 - 1 保育内容 [生活]	評価結果	
	A	
<p>評価機関記入欄</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育士は残すことを叱ったり、嫌いな物を無理に食べさせることはありません。子どもたちは自分で食べたい量をよそい食べています。 乳児は自分で食べることを大切にするため、スプーンは口元で止めて自分で食べようとするのを大事にしています。それぞれの食べるスピードを尊重するため、食事の発達でグループ分けをして、席や食べ始める時間を考えています。 子どもたちが食事やその過程に関心をもつように、0歳児から野菜を触ったりしています。幼児になると自分でよそったり、配膳、下膳しています。 食器は高強度磁器を使い、スプーンですくいやすいように皿の角は直角になっています。介助用のスプーンも発達段階で替えています。 栄養士は保育室を訪れ、子どもたちが食べている様子を見たり、子どもたちから感想を聞いています。 献立表には毎月、献立作成のポイントだけでなく、栄養士の気づいたことや海藻の話、食物アレルギーの話、発酵食品の話など様々な情報提供をおこなっています。 眠れない子ども、眠くない子どもには午睡を強要していません。訪問の日、保育室で眠れなかった子どもは園長室で過ごしていました。 安心して眠れるようにカーテンを引いたり、静かにわらべ歌を歌ったりしています。寝かしつけられるだけでなく、見守られて自分で眠ることを大事にしています。 トイレトレーニングは一人一人の発達状況に合わせて個別に対応しています。園での様子を伝え、また家庭での様子も聞いて双方で無理なく進めています。 おもらしをした子どもを叱るようなことは決してありません。排泄の対応の中で「一人一人の尊重」は全職員が最も大事にしていることです。 授乳については、その子どものペースに合わせて保育士が抱いて授乳しています。離乳食を食べさせる時は0歳児は歩けるようになるまでは抱いて1対1で食べさせ、自分で食べられるようになったら、2対1について、子どもの食べるペースを大事に、食事の時間を作っています。そのため、食事までの時間が長くなったり、待つ間に眠くなる子どももいることを考え、さらなる工夫が期待されます。 		

評価分類 - 2 健康管理・衛生管理・安全管理 【健康管理】	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・「健康管理マニュアル」「感染症対策マニュアル」があります。 ・看護師及び保育士が、朝の視診をしっかりと行い、保護者からも口頭で様子を聞き、一人一人の健康状態を把握しています。 ・園での子どもの健康状態は必要に応じて保護者に連絡し、降園後の対応について相談にのっています。また前日の体調不良やけが等があった場合は、早出の保育士、園長でその後の様子の確認を行っています。 ・年2回の健康診断・年1回の歯科健診をおこない、健康台帳に記載しています。 ・嘱託医の先生が隣接する病院の医師のため、すぐに受診ができ、連携体制が密に取れています。 ・保育中に感染症が発生した時には保護者へ速やかに連絡をし、保護者の事情を考慮して、迎えが来るまでは、看護師の管理の下、医務室にて安静に過ごしています。 		
評価分類 - 2 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・「衛生管理マニュアル」があります。 ・看護師指導のもと、保育室・トイレ・給食室等の清掃・消毒が行われ、清潔に保たれています。 ・マニュアルの定期的な見直しをしたり、共有するための研修・具体策が講じられていません。 		
評価分類 - 2 健康管理・衛生管理・安全管理 【安全管理】	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・「安全管理マニュアル」があります。 ・未然防止のための措置やプール・水遊び・散歩・園外活動・災害時等に対応しており、職員に周知されています。 ・毎月1回、火災や地震を想定した訓練が実施されています。地域の避難所に避難する訓練や「らくらく連絡網」を使っての保護者の練習もしています。 ・子どものケガは連絡帳に記載し、口頭でも保護者に状況を説明しています。記録もつけています。 ・おもちゃ棚やロッカー等には転倒防止の安全対策が取られています。しかし、幼児の絵本コーナーの棚が天井近くまであり、地震の際に上の棚から物が落ちないような工夫が望まれます。 ・玄関は施錠され、ICカードで管理されていますが、外階段・園庭の対策がまだ不十分です。保護者アンケートからも心配する声が聞かれました。改善されることが望まれます。 		
評価分類 - 3 人権の尊重	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちをせかしたり、急がせることはありません。子どもたちのペースで生活できることを大事にしています。常に穏やかで分かりやすい言葉で話しています。 ・子どもたちが自分の気持ちを出せるように常に寄り添い、いつでも受け止める姿勢があります。 ・人格を辱めるようなことや自尊心を傷つけるようなことはありません。子ども一人一人の気持ちを尊重して日々の保育をしています。またそれは全職員で共通の理解をしています。 ・必要に応じて、絵本コーナー、外階段のベランダ、事務室などを使って一対一で話す場所があります。 ・守秘義務の意義や目的を採用時に、職員やアルバイト、ボランティアにも周知しています。 ・個人情報の取り扱いについては「入園のしおり」で説明し、説明会等でも保護者に説明し、了解を得ています。 ・遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別はしていませんが、性差について、今回の第三者評価の受審を機に初めて意識した職員が多くあり、今後、お互いの気づきを話し合ったり、反省する仕組みができることが望まれます。 		

評価分類 - 4 保護者との交流・連携	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者には入園説明会や年度はじめの全体会で、クラス方針・抱負・普段の保育の基本や行事の考え方等を分かりやすく理解できるように説明しています。 ・保育参観・保育参加の後に個別面談をしています。また5歳児は卒園の1ヶ月前にも行います。その他希望があればいつでも個人面談を受けることができます。 ・相談を受けた職員が適切に対応できるように園長も一緒に考えていくシステムはできています。また、職員の研修を担当している外部カウンセラーに助言を求めることができ、実際に何例か助言してもらいました。 ・各クラスにその日の保育の様子を知らせる掲示があります。また、時には写真で活動の様子を知らせることもあります。 ・クラスごとに保育参観・保育参加の日程を設けています。前年度もほとんどの保護者が参加しました。 ・保護者会があります。役員会には場所の提供をしています。また、保護者会は文集担当やわらべうた担当等グループが分かれており、それぞれに担当の職員がいて、参加しています。 ・日常保育の中や園だより、連絡帳などで保育方針が理解されるよう努力しています。今後は保護者の理解をより深めるために、保育方針等が保護者の目につく場所に掲示されることが望まれます。 		

評価領域 地域支援機能

評価分類 - 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供	評価結果	
	C	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は栄養士による「安心で美味しいおやつ」のテーマで手作りおやつ講習会と絵本出版社の方による「絵本は心の栄養です」という講座を開催しました。おやつ講習会では添加物についての実験を含み、参加者に安心できる食べ物について考えてもらう機会になりました。今後は「わらべうた」や「ベビーマッサージ」も予定しています。 ・園庭開放も行っていますが、園庭が建物の裏側にあり、表の道からは見えにくいので、園庭開放をしているポスターを門扉など大勢の人の目に触れる場所に掲示するなどの工夫が期待されます。 ・開園2年目ということで、地域支援のニーズの把握に努めたり、職員間で話し合ったりするまでには至っていません。今後の課題となっています。 		
評価分類 - 2 保育所の専門性を活かした相談機能	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の掲示板や回覧板、ビルの1階掲示板に、講習会や交流保育のお知らせを掲示して、情報提供に努めています。 ・鶴見区の福祉保健センターの保健師やケースワーカー、横浜市東部地域療育センター、汐田総合病院等との日常的な連携ができています。 ・育児相談や情報提供はまだ行っていません。園長や栄養士・看護師等で、専門的な相談を受けることができると考えていますが、日々の業務の兼ね合いからまだ実施には至っていません。今後の課題となっています。 		

評価分類 - 1 <u>保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</u>	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども達・保護者・職員みんなで楽しむ夏の納涼会」や「保育講座」の行事のチラシを配布する等して、地域住民の方を招待しています。 ・近隣中学校から毎年ボランティア、職業体験を受け入れ、園の運動会では中学校の体育館を利用する等、交流を図っています。又、近隣小学校とは、園設立後初めての卒園生の進学に向け、種々打合せを行う等、小中学校教育との連携を積極的に図っています。 ・子どもたちの散歩のコースでもある近隣公園で開かれる町内会行事の「シャボン玉づくり」コーナーに参加したり、また、近隣消防署へ見学に行く等、近隣との関係づくりの取り組みを行っています。 ・地域の方から花や野菜を貰ったり、七夕の時には、笹を提供して下さる方の庭に、子ども達が笹を貰いに行っています。又、散歩の時に子どもたちは挨拶したりと、地域の人達と交流を図っています。 ・町内会に参加し、現在、近隣公園を職員と子ども達で清掃することを計画していますが、他の地域団体・機関も含め、定期的、計画的に交流を図るまでには至っていません。 		
評価分類 - 2 <u>サービス内容等に関する情報提供</u>	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・園の情報提供の主な方法は、パンフレット配布、ホームページ、「ヨコハマはびねぼっと」に表示、チラシ配布、園内に掲示、つるみ de 子育て（小冊子）に記載等で行っています。パンフレットは来園者へ配布する他、参加するイベント等で配っています。 ・サービス内容、料金、職員体制等記載された「園のしおり」を、園の玄関に掲示し来園者誰もがみられるようにする等必要な情報を提供しています。 ・利用希望者や見学者には、曜日を決めて対応していますが、希望によっては曜日の変更に対応しています。 ・外部の情報提供媒体は「ヨコハマはびねすぽっと」並びに「つるみ de 子育て」に情報を提供しています。 		
評価分類 - 3 <u>ボランティア・実習の受け入れ</u>	評価結果	
	C	
<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティア・職業体験受け入れ」のマニュアルを作成しています ・昨年・今年と近隣2中学校からボランティア、職業体験を受け入れています。受け入れに当たっては、職員や利用者にも基本的な考え方・方針を説明しています。 ・ボランティアや職業体験の意見・感想を聞いています。同内容を職員に回覧し、保育実施に反映するよう努めています。 ・開設2年目に付実習生受け入れの実績はありません。「実習生受け入れ」マニュアルを整備するまでには至っていません。 ・今後、いつでも実習生を受けられるようにマニュアルを整備されることを期待します。 		

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類 - 1 職員の人材育成	評価結果	
	C	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所運営に十分な人材構成であるかチェックし、園長が本部事務長と相談して、必要な人材の補充を行なっています。人材育成計画に保育理念・方針をふまえた保育が実施できるよう、研修や観察実習、勉強会等を通して取り組むことが明記されています。職員は毎年4月に前年度の自己評価を基に、資質向上に向けた新年度の自己目標を立て、達成度を評価しています。 ・職員の研修ニーズに配慮して、研修担当者（園長）が研修計画を作成しています。職員は“発達がわかれば子どもが見える”“遊びの中での大人の役割”“発達障害の基礎を学ぶ”など毎月のように園内研修を実施して保育の質の向上を図っています。外部研修は横浜市こども青少年局主催研修、鶴見区保育施設職員研修、鶴見区福祉保健センター主催研修、コダーイ芸術教育研究所主催研修など積極的に参加しています。研修を受けた職員は、報告書を作成し、職員会議等で報告しています。 ・業務の標準化や職員が保育等を適切に行うための方法や基準を解説した業務マニュアルが作成されていません。非常勤職員が常勤職員と同様に資質向上に取り組むことが期待されます。 		
評価分類 - 2 職員の技術の向上	評価結果	
	B	 
<ul style="list-style-type: none"> ・職員たちのモチベーションは高く内部研修、外部研修の積極的に参加して資質向上に努めています。職員は工夫・改善したクラスの事例を学び、意欲的に取り組んだ事例の報告を毎月の会議などで行なっています。 ・必要に応じて外部から保育の技術の評価・指導等を受ける仕組みがあります。相談したい子どもの内容をあらかじめ文書で渡して検討してもらい、来園して午前中保育観察を実施し、午後はカンファレンスを行うなど時間をかけて丁寧に評価・指導を受け職員のスキル向上に努めています。 ・保育士一人一人が振り返りを文章に出来るよう、自己評価の書式は定型化しています。自己評価は計画で意図した保育のねらいが達成されたか記入して保育士同士で確認しています。保育の自己評価は子どもの成長や意欲を大切に、結果だけでなく保育の方針でもある取り組む過程の子どもの言動を何よりも重視しています。 ・保育士等の自己評価を職員会議等で話し合い、子どもの自立、自主性が育つ保育が実施されているか保育園としての課題を明らかにして、全職員で改善に向けて取り組んでいます。 ・保育園としての自己評価を書面にして公表するまでには至っていません。事業報告書にまとめを記入しているので、さらに保育理念、子どもの発達援助、保護者支援などの観点で自己評価に取り組み、保護者や地域への社会的責任として自己評価を公表することが期待されます。 		
評価分類 - 3 職員のモチベーションの維持	評価結果	
	B	 
<ul style="list-style-type: none"> ・職員にはクラスリーダー、行事の係、保護者対応等権限を委譲し、自信と責任を持たせています。最終責任は園長にあるとして報告、相談するよう伝えていきます。職員は日常的に職員会議等で、業務改善などの意見を言える関係が作られています。例えば職員から出た意見が掃除の時間帯について変更する話し合いにつながり、時間帯を変更した事例があります。 ・職員のモチベーションを高めるよう研修や勉強会は行われていますが、経験・能力や習熟度に応じた役割を期待水準として明文化することはしていません。今後はレベル別の期待水準を作成し、職員の目標を設定することが望まれます。 		

<p>評価分類 - 1 経営における社会的責任</p>	<p>評価結果</p>	
	<p>B</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「全国保育士会倫理綱領」を示して、不正・不適切な行為を行わないよう法・規範・倫理等を職員に周知しています。 ・ゴミの減量化、ゴミの分別によるリサイクルのための取り組みを行なっています。牛乳パックや裏紙等を有効活用しています。園内には牛乳パックで作ったベンチに布カバーを付けて子どもたちが座るなど、リサイクルの家具があります。 ・環境配慮への取り組みは実施されていますが、園としての方針は明文化されていません。今後は、環境配慮への考え方、取り組む目的等を明文化して、環境に対して子どもたちが関心を持つように配慮することが望まれます。 		
<p>評価分類 - 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>	<p>評価結果</p>	
	<p>B</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員は入職時に理念等の研修を受けています。また、職員会議等でことある毎に説明し、周知しています。年2回の面接時や会議などで園長は、職員と話して理念等を確認しています。職員は指導計画の作成にも理念、方針、目標に立ち返り話し合っています。 ・重要な意思決定にあたり、園長は保護者と継続的に意見交換をしています。例えば、開園時、横浜市からの要請で1・2歳児を定員以上受け入れたため、1,2年目は1・2歳児の混合クラスにする際、保護者と意見交換をし、さらに、職員及び保護者に目的・決定理由等を十分説明しています。 ・個々の職員の業務状況は保育日誌や日報から把握しています。職員の能力や経験に合わせて保育について助言したり、研修を勧めたりしています。また、個々の職員が良好な状態で仕事に取り組めるように、声かけをしたり気配りしたりしています。 ・現在主任が不在でその業務を園長が担っています。主任クラスを計画的に育成するプログラムを作成していくことが望まれます。 		
<p>評価分類 - 3 効率的な運営</p>	<p>評価結果</p>	
	<p>B</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に影響のある国の施策や県・市の施策等の情報は理事会で収集・分析しています。重要な情報は理事会の実務者会議等で議論し、重点改善課題として設定されています。制度や法律の改正、社会情勢の変化など重要な改善課題と設定された内容は、職員に会議や紙面で伝えています。 ・運営に関し、看護専門学校講師、病院医師等様々な外部機関や専門家などの意見を取り入れ、施設運営に反映するよう努めています。 ・中長期の事業の方向性を定めた計画を作成するまでには至っていません。 		



利用者家族アンケート分析

【実施概要】

実施期間：平成 27 年 10 月 1 日～10 月 15 日

実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に直接郵送してもらった。

回収率：配付 46 件、回収 29 件、回収率 63.0%

【結果の特徴】

保育園の総合満足度は、96.5%と多くの保護者が「満足」「どちらかといえば満足」と回答しています。項目別では、入園時の「1日の過ごし方の説明」、日常の保育内容（遊び）での「おもちゃや教材」「園外活動」「友達や保護者との十分な関わり」「健康づくり」で、日常の保育内容（生活）での「献立内容」「昼寝や休憩での対応」で、又、職員の対応の5項目中4項目で、「不満」「どちらかといえば不満」の回答がなく、ほぼ全員の方が「満足」「どちらかといえば満足」と回答しています。

自由記述欄には、「のびのびと育ててくれているので、本人はとても楽しそうにしている、保護者としても安心である」「年間行事も、とても充実されている」「保育士は、気さくであたたかく接してくださり、信頼しています」との声が聞かれています。その他の項目も、ほとんどが「満足」「どちらかといえば満足」の割合が85%以上となっています。その中で、園と保護者との連携・交流並びに安全対策の項目で、「もう少し情報があるとうれしい」「園庭を含めたセキュリティの一層の強化をお願いしたい」という意見も寄せられています。

園の保育目標や保育方針について

約80%の保護者が、保育目標や保育方針を知っていて、その目標・方針について「賛同できる」「まあ賛同できる」と、全員が回答しています。

数値80%は「知っている」「まあ知っている」を合わせたもの。

入園する時の状況

「入園前の園からの情報提供」「目標や方針の説明」「園での1日の過ごし方の説明」は96%の保護者が満足しているとの回答です。「もう少しホームページに情報をのせて欲しい」との意見があります。

ここでの満足回答数値は、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせたもの。（以後同様）

日常の保育内容について

「遊び」「生活」の項目については、各内容にほぼ90%以上の保護者が満足と回答しています。「子どもの外遊びを歓迎する」「本人のペースに合わせてくれている、楽しく通っている」との声も多いです。

快適さや安全対策について

「施設設備」「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気」については、96%の保護者が満足していますが、安全対策では「外部からの不審者侵入防止」で13.8%の「どちらかといえば不満」の回答があります。

職員の対応について

「お子さんが大切にされている」「園生活を楽しんでいる」の項目については、100%の保護者が満足と回答しています。

矢向あけぼの保育園 利用者家族アンケート集計結果

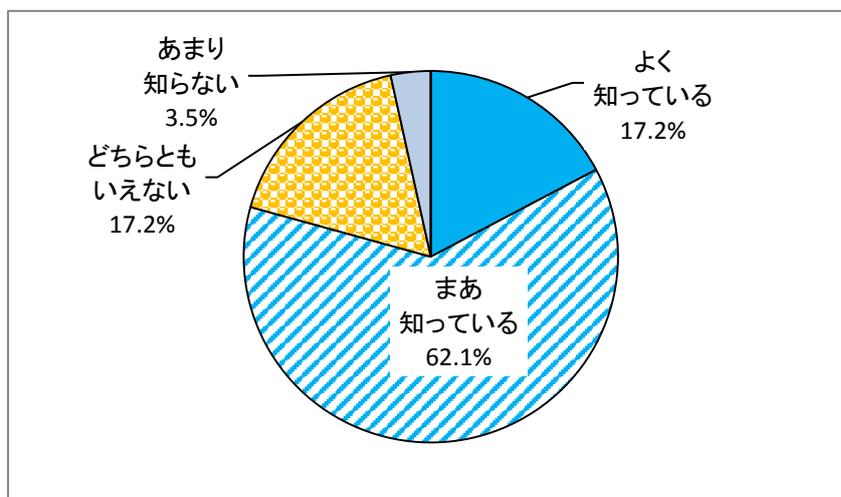
実施期間	平成27年10月1日～10月15日
調査対象	利用者家族
配布世帯数	46件
有効回答数	29件
回収率	63.0%

お子さんのクラス	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答	(人)
	4	5	7	8	4	1	0	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

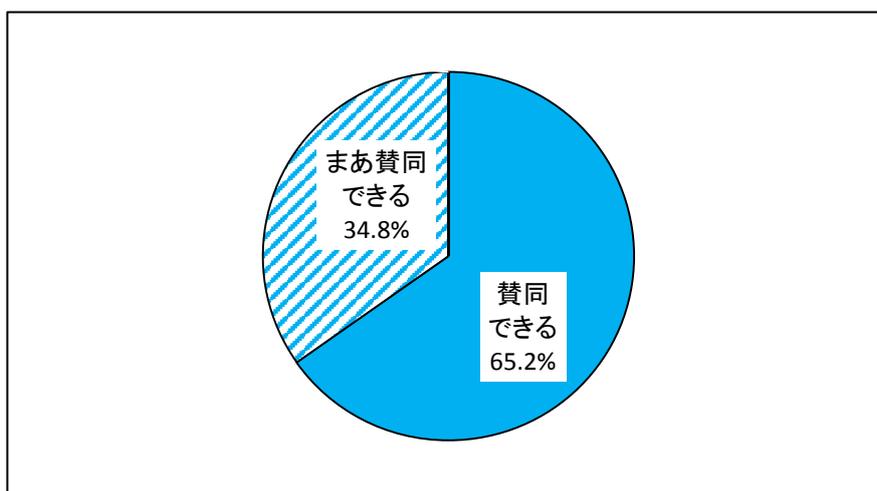
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	17.2	62.1	17.2	3.5	0.0	0.0	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

付問1	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	(%)
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	65.2	34.8	0.0	0.0	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	48.3	24.1	0.0	0.0	24.1	3.5	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	58.6	37.9	3.4	0.0	0.0	0.0	
園の目標や方針についての説明には	58.6	37.9	3.4	0.0	0.0	0.0	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	75.9	17.2	3.4	0.0	3.5	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	65.5	31.0	0.0	0.0	3.4	0.0	
費用やきまりに関する説明については	62.1	31.0	6.9	0.0	0.0	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	51.7	34.5	6.9	3.4	3.4	0.0	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	41.4	44.8	3.4	0.0	10.3	0.0	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	75.9	20.7	3.4	0.0	0.0	0.0	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	75.9	20.7	3.5	0.0	0.0	0.0	
園のおもちゃや教材については	62.0	34.5	0.0	0.0	0.0	3.4	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	58.6	27.6	0.0	0.0	13.8	0.0	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	65.5	31.0	0.0	0.0	3.4	0.0	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	62.1	27.6	0.0	0.0	10.3	0.0	

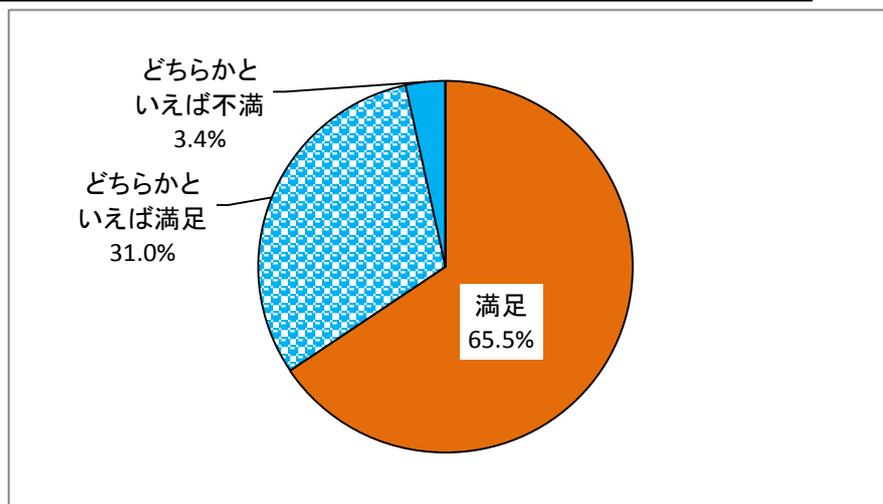
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	79.3	20.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	69.0	27.6	3.4	0.0	0.0	0.0	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	51.7	37.9	0.0	0.0	10.3	0.0	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	51.7	48.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	55.2	27.6	3.4	0.0	10.3	3.4	
お子さんの体調への気配りについては	65.5	31.0	3.4	0.0	0.0	0.0	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	58.6	31.0	3.4	0.0	6.9	0.0	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	58.6	37.9	3.4	0.0	0.0	0.0	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	62.1	34.5	3.4	0.0	0.0	0.0	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	44.8	41.4	13.8	0.0	0.0	0.0	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	51.7	37.9	3.4	0.0	6.9	0.0	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	44.8	48.3	0.0	3.4	3.4	0.0	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	62.1	34.5	0.0	3.4	0.0	0.0	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	51.7	37.9	6.9	3.4	0.0	0.0	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	51.7	37.9	6.9	0.0	3.4	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	62.1	27.6	6.9	0.0	3.4	0.0	
保護者からの相談事への対応には	51.7	41.4	3.4	0.0	3.4	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	51.7	34.5	0.0	0.0	13.8	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	75.9	24.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	79.3	20.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	51.7	20.6	0.0	0.0	24.1	3.4	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	65.5	31.0	3.4	0.0	0.0	0.0	
意見や要望への対応については	55.2	37.9	0.0	0.0	6.9	0.0	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	65.5	31.0	3.4	0.0	0.0	





利用者本人調査

【実施概要】

実施日時：平成 27 年 12 月 8 日、12 月 14 日

実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で 適宜聞き取り調査を実施。

0 歳児クラス つくし組

朝のおやつが終わった子どもは好きなおもちゃを取り出し遊びます。保育士は優しい声でわらべ歌を歌っています。絵本を持ってきて、保育士のひざに座って読んでもらう子どももいます。ゆっくり食べていた子どもも終わりました。順番におむつを替えてもらい、みんなで「はとぼっぼ体操」をします。にこにこしながら、どの子どもも楽しんでいます。今日は園庭で遊びます。廊下をよちよち歩いて外階段まで行きます。外階段は順番にゆっくり下ります。歩行の不完全な子どもは保育士がおんぶして下ります。電車の音がすると「電車来たね～」という保育士の声に、指をさしたり、「うんうん」とうなずいています。園庭では思い思いに遊びます。砂場に行き、カップやバケツに砂を入れたり、フェンス沿いに植えられている草花を触ったり、枯草をひっぱったり、保育士が「ツンツン痛いね」と声をかけながら、もみの木を触っている子どももいます。足蹴り乗用玩具を指さす子どもには「乗るの？」と聞いて渡します。それを見て、他の子どもも来ます。「ちゃんも乗りたいの？」丁寧に一人ずつ聞いて渡します。たっぷり好きな遊びをした後、低月齢の子どもから保育室に戻ります。おむつを替え、ズボンを着替え、手足を洗い、お茶を飲んで一息つきます。食事の準備が整い、順番に 1 人、もしくは 2 人ずつ、エプロンをして担当の保育士と食べます。「おいしいね」「上手ね」と声をかけてもらいながら食べます。食事の順番を待っている子どもは看護師と遊んでいます。食事の終わった子どもは、コットに入ります。子どもたちは見守られて自然に眠りにつきます。

1・2 歳クラス たんぼぼ組

お気に入りのタオルを持って登園する子どももいます。泣かずに保護者と別れた子どもには「バイバイできたね。えらかったね。パパ、いっぱいお仕事できるね」と保育士は声をかけます。「転んじゃった」と言いながら入って来た子どもには「転んじゃったの？」「でも、平気」「もう大丈夫なの？すごいね」と答えます。登園後、子どもたちは好きな遊びを楽しんでいます。保育士は、子どもたちに声をかけながら、遊びが広がるように援助しています。片づけの時間になりました。子どもたち一人一人に「今日のおやつは何か知ってる？」「おやつ食べるからここに入れてね」「車庫はこちらです」など声をかけながら、一緒に片づけていきます。なかなか片づけられない子どもには「じゃあ、ここに飾っておこうね」と棚に飾ると納得してトイレに行きます。

第一公園に散歩に行きます。保育士が遊具が濡れているのを拭いたり、空き缶などごみを拾っている様子を見ながら、静かに待ちます。「遊んでもいいよ」と言われると、みんな一斉に元気いっぱい走りだします。鉄棒にぶら下がったり、地面に枝で線を描いたりする子どももいます。同じ遊具に集中した時にはみんなで「いちじく、にんじん、……」と数えながら順番を待ちます。散歩から帰るとグル

ープ別に入室します。待っている間はわらべ歌を歌ったり、手遊び、身体遊びをします。着替え、トイレ(おむつ替え)手洗いの後、エプロンをして給食を食べます。先に食べ始めたグループは食べ終わると、コットに入って眠ります。なかなか眠れない子どもには保育士がさすったり、トントンして付き添っています。

2 歳児クラス ちゅうりっぷ組

手作りの人形をだっこやおんぶして、布バッグを持ち、それぞれ父親・母親役になり、保育士の所に来ます。「お迎えは何時ですか?」「2時です」「おやつは食べますか?」「はい、お願いします」などのやり取りをし、人形やバッグを保育士に預けて「行ってきます」と保育園ごっこを楽しんでいます。保育士の背中におぶさってくる子どもがいます。優しくわらべ歌を歌って身体をゆすると、他の子どもたちも次々「やって~」と近寄ってきます。順番に代わりながら遊びます。人形をめぐる取り合いのけんかがおこります。保育士はすぐに止めようとせず、自分の気持ちを伝え合うのを見守っています。しばらくして、自分の要求が通らず泣いている子どもを優しく抱いて思いを聞き、もう片方の子どもにも気持ちを聞き、お互いに納得でき、また遊びを再開しました。一時保育の子どもへの参加がありました。担当保育士が一人入り、クラスの子もたちと一緒に遊べるように援助しています。また「おやつを食べる?お茶だけにする?」と本人の意向を確認しています。第三公園に散歩に行きます。滑り台は何度も繰り返して滑っているうちに頭から滑ったり、豪快な滑りになってきます。保育士は子どもの気持ちを大事にして、見守っています。砂場で遊んだり、植え込みの木に登ったり、ぶら下がったり、走り回っている子どももいます。転んでもすぐに立ち上がり、また走り出します。ゆり組(3・4歳児)が合流しました。大縄の「くまさん、くまさん」では、跳ぼう、と同じように並んで挑戦する子どももいます。ゆり組が手をつないで一緒に走ってくれたり、おばけごっこに参加したり、1時間ほどたっぷり遊んだ後、お茶を飲んで、園に帰ります。

3・4 歳児クラス ゆり組

登園すると、サインペンを使って細かい線を描いたり、パズルや粘土をしたり、電車の線路をつなげたり、スカートやエプロンをつけ、洗濯物をピンチにかけるなどのままごとをしたり、それぞれ1人や2,3人で好きな遊びを楽しんでいます。昼食の準備のために炊飯器を持って保育士が入って来ると「見せて~」と数人が開けてお米を確認しています。保育士は「電車を作りたい」と言う子どもに「廊下の椅子も使っていいよ」と、一緒に椅子を運び2列に向かい合わせに並べます。言い出した子どもは一つだけ椅子を前に向け、ハンドルになる輪をみつけ運転しています。そこへままごとをしていた子どもたちがスカートやエプロン姿で「乗せてくださ~い」と来ます。ぬいぐるみで遊んでいた子どもたちもぬいぐるみ遊びの中で電車に乗る話を作り乗り込みます。「切符がいるんじゃない?」と気づいた子どもがいました。保育士が色画用紙の切れ端を渡します。駅員になる子どもができて、切符を入れる箱もおもちゃ棚からみつけてきました。パズルをしていた子どもも電車に気づき、乗ってきます。「そろそろ時計を見てね」という保育士の声がかかるまで入れ替わり、電車に乗ったり、降りたり、友だち同士で自主的にかかわって遊んでいました。

朝の会では「赤鼻のトナカイ」を手話つきでみんなで歌います。絵本「みどりのはっぼ・きんいろのはっぼ」を見ます。「来週クッキングでクッキーを作ります」「やった~!」と歓声が上がります。「今度はつくしさんやたんぼぼさんたち、みんなにあげようと思います。でも、まだ内緒ね」という保育

士の言葉にみんな嬉しそうに顔を見合わせ、「内緒ね」と言い合っています。

3・4・5 歳児クラス ひまわり組

20 分ほど歩いて、町のはらっぱ公園に行きました。保育士は、桜の木の葉がほとんど落ちていることなど自然の変化に気づかせていました。その後、自由に遊びます。縄跳びは 1 人で跳んだり、大縄にして数人で跳んだりします。木に登り、上から電車が通るのを見ている子どもや石の下に何かいなか、と石を動かす子どもたちもいます。自分たちで動かせない大きな石は保育士に頼みます。大きなミミズが出てきました。手のひらに載せ、「くすぐったい」「へびみたい」「気持ち悪～い」など言い合います。葉っぱと石でままごとをしている子どもたちもいます。縄とびを使って 4 人で電車ごっこも始まります。運転手が交代したり、仲間入りする子どもがいたり、逆に走ろうとして脱線したりします。広い公園のあちらこちらで遊びが展開しています。

気持ちのくい違いからけんかになる場面もあります。保育士は見守っていますが、時に仲立ちする場合もあります。子どもたちは自分の気持ちを出して、それを受け入れてもらい、仲直りしたり、新しい遊びに移ったりしています。1 時間近く遊び、お茶を飲んで帰ります。着替え、手洗い、うがいをしてテーブルにつきます。ご飯と副菜は自分でよそいます。主菜はワゴンに置いてある物を各自取ります。汁物は保育士がよそい配膳します。5 歳児は 3 歳児の配膳を整えたり、手伝っています。保育士はお代わりの終わりの時間、食事の終わりの時間を時計にシールで貼って知らせます。なごやかに話しながら食べています。お代わりも自由にしています。食事が終わった子どもはワゴンに食器を下げ、席で歯磨きをします。



事業者コメント

第三者評価を受けて、職員のコメント

矢向あけぼの保育園

日頃からの、一人ひとりの子どもへの対応や保育内容に関して、高く評価され、やりがいを感じた。

保護者からも、基本の保育方針に対しての満足が100%とあり、細かいところでの意見の違いはあるが、子どもの今の姿からの満足が得られていて安心した。この評価を受けて、職員間や保護者との意見交流をしっかりと行い、更に質の高い保育へと向かっていきたい。

開園2年目というところで、意識の薄いところ、地域への子育て支援の不十分さ、保護者への保育内容の公開、衛生・安全管理の不十分さ等、これからの課題がはっきり見えた。

今後、職員が力を合わせて、一つ一つの課題に取り組んでいきたいと思う。

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号
横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号
横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01
全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 認証番号 2510-002-02

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター
〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室
TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118
<http://www.yresearch-center.jp>

